



近藤国嗣
全老健 常務理事

羅針盤

リハビリテーションの力で ポストコロナの 夢と希望を叶える



新型コロナウイルス感染拡大から1年半、変異型株による第4波は全国に広がり、医療・介護の現場ではこれまで以上に厳しい状況が生じている。

老健施設で働いておられる方は、業務の緊張感そして家族、友人等との交わりを制限された生活により、心身ともに疲弊されていると思う。また入所者、そして通所・訪問リハビリテーション利用者も、施設内での活動機会の制限や、感染防御生活、通所の利用控えによる身体機能の低下がみられる方、家族との面会制限や交流が減ったことによる抑うつや認知機能の低下などが生じている方も少なくない。

一方で、通常に近い医療・介護を継続すべく、創意工夫をこらし、一人ひとりの行動、施設運営、環境調整、そして会議、教育、家族・地域とのつながり方などで、変容と改革もされてきたかと思う。新型コロナウイルス感染拡大前とはまったく違う日常となったのではないだろうか。さまざまなことがターニングポイントとなったが、もしかすると収穫が得られたこともあるだろう。

長く辛い日々が続いているが、明けない夜がないように、ワクチン接種が進んできたことにより、光も見えてきた。

ワクチン接種が進むなか、他国の状況を見ると、ポストコロナの世界が見えてきている。そろそろポストコロナの夢や希望を叶えるための計画を立てはじめてもいい時期かもしれない。まずは、入所者や利用者、そして家族にポストコロナの夢や希望を聞いてみてはどうだろうか。なるほどと思う話や、思いがけない話を聞くことができるかもしれない。

当然だが、夢と希望を叶えるためには、リハビリテーションの力も必要だ。ただし、漫然と同じことを繰り返すリハビリテーションを実施するのではなく、夢や希望となる活動・参加目標を設定し、目標を達成するための設計図をしっかりと描くこと、その上で医師、リハビリテーション専門職、そして看護・介護職などの多職種が連携して取り組んでいく必要がある。

今回の介護報酬改定にて、老健施設では「リハビリテーションマネジメント計画書情報加算」が新設された。また、通所・訪問リハビリテーションでは、従前の「リハビリテーションマネジメント加算I」「介護予防リハビリテーションマネジメント加算」が基本報酬に包括されたことで、その概念は必須化された。つまり、リハビリテーションの実施にあたっては、まず具体的な目標を利用者と多職種で話し合い、医師の医学的管理と指示を含む設計図を描き、それを利用者と共有し、S-PDCAサイクルを多職種が協働しながら継続していく必要があるということである。

なお、今回の改定で新設されたLIFEにあたっては、システムの遅れが生じているようである。この遅れを、ポストコロナとなったら一気に走り出すための助走期間として、自施設でのリハビリテーションの質の向上を進めてはいかがだろうか。

もう1つ大事なことがある。それは、私たち自身もポストコロナの夢や希望、そして新たな生活を心に描くことだ。もちろん、コロナ前の生活に戻ることも素敵だと思うが、もしかすると、ポストコロナの新たな生活はさらに素敵かもしれない。